

君の夢を叶える それが、私たちの夢。

むつ市の新年度の予算が決まりました。私たちの暮らしをより良くするために大切なもの。今年度、むつ市が取り組む主な事業をご紹介します。

新年度の予算は「市民のくらし応援予算」と銘打ち、そのくくらしが昨日より今日、今日より明日と、より良いものになるための事業を集めました。

医療改革では、良質な医療を提供し、選ばれ、信頼され、待たせない医療の実現を図り、インフラ整備では、全国のコンパクトシティモデル都市に相應しいまちづくりを目指します。教育では、子どもたちの可能性を最大限に引き出し、その夢を応援する事業を展開します。

行政は、市民のみなさまと地道を開き、図面を広げ、時に現場に赴くことで課題を解決しながら、予算を駆使し、くらしを向上させる取組みを実行します。

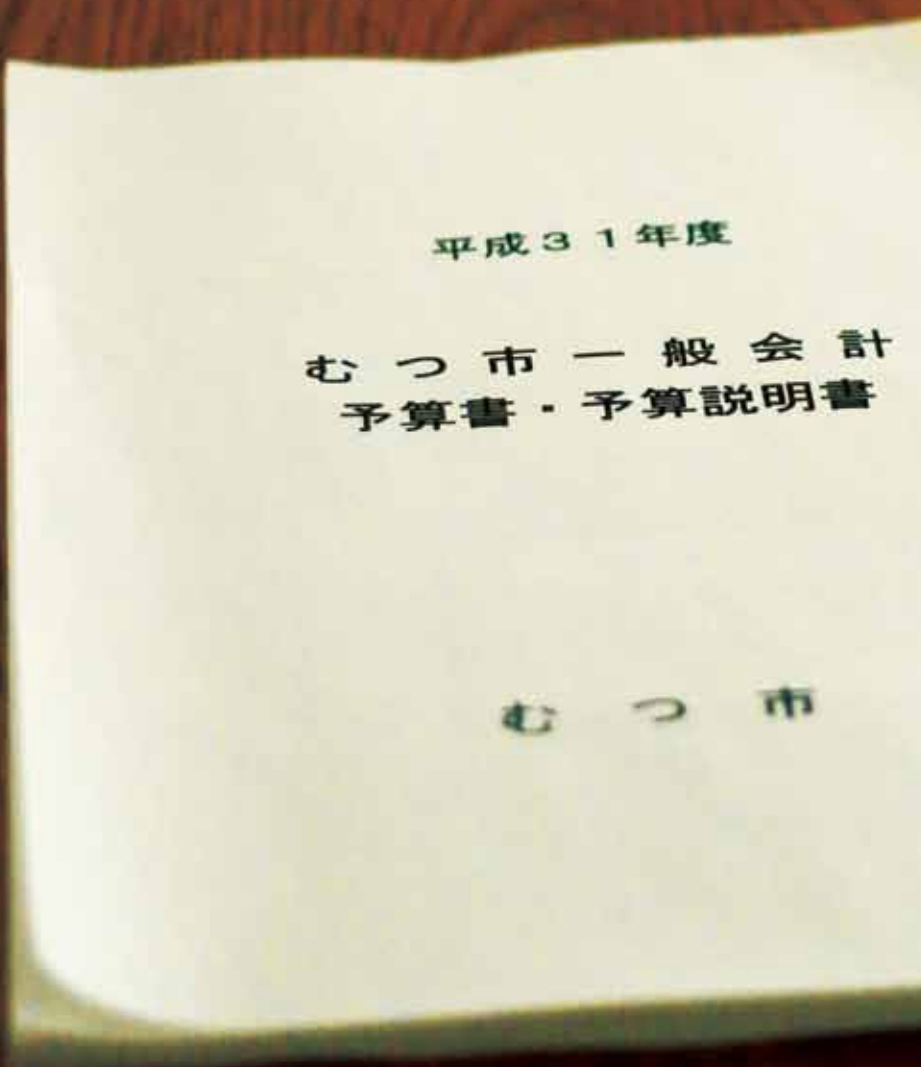
「君の夢を叶えるのが私たちの夢」今は家族に支えられている子どもたちへ、妊娠、出産、育児そして教育の充実。大きくなれば、働く場所の確保、住みよいまち、世代が変わり子育ての充実。高齢になれば、医療、介護、福祉。その人生を通して夢を支えるのは、むつ市での「くらし」。

一人ひとりの夢を支える「市民のくらし応援予算」によって、みなさまの夢への歩みが進み、達成され、笑顔がかがやき希望にあふれた人生になることを心から願っています。

平成31年度一般施政方針より一部抜粋

市民のくらし応援事業 3つの柱

- 医療と健康づくりでくらしを向上
- 子育て・教育と介護でくらしを向上
- まちづくりでくらしを向上



地域のみんが安心して暮らし、地域の総合力向上に不可欠な医療の充実と健康長寿のまちづくりを進める。

医療と健康づくり くらしを向上

圏域内で唯一の総合病院であり、外来・入院治療が必要な重症患者の治療を担うほか、高度医療や先端医療を提供する病院までの距離が遠いこともあり、高度医療機関としての性格も併せ持つむつ総合病院。深刻な医師不足が4時間を超える待ち時間を招き、老朽化し

た病棟が医療環境の快適さを低下させつつある現状に対し、いざという時に安心があるくらしの実現に向け、医師確保と診療環境の充実を進めていきます。併せて健康づくり。40〜60歳の死亡率に歯止めをかけるべく、時代のニーズに合わせた取組みを実施します。

下北地域の中核病院として、むつ市と下北郡内の4町村および隣接する医療圏を含めた約8万人の医療を支えるむつ総合病院。年間およそ40万人の患者が行き交うが、「深刻な医師不足」と「病棟の老朽化」という大きな課題に直面している。



むつ下北・地域医療連携事業

弘前大学医学部と連携し、むつ下北地域特有の疾患に関する研究と実践を通じて医師確保を図るとともに、医師の通勤支援を通じて地域医療の充実と住民の健康増進を目指します。これによって消化器内科医や整形外科医など新たに5名の常勤医師と診療応援医師が増員される予定です。

むつ総合病院 一般病棟建替え基本構想策定事業

昭和52年に建てられた一般入院病棟は建設から42年。耐震性への不安を解消するとともに、時代のニーズに合った整備を進めることは、安全で安心な医療を受けられる環境の充実につながります。まずは基本構想。入院病棟の規模や求められる機能の検討などを進めていきます。



効果に期待!



- 医師増による待ち時間短縮
- 腎臓内科新設に伴う遠距離通院の減少
- 内視鏡・超音波等検査体制の充実
- 糖尿病に係る地域連携の推進
- 災害に強い病院

など

保健情報システム整備事業

携帯電話やPCから10月スタート!
健(検)診のweb予約が可能に!



これまで市役所窓口で予約していた健(検)診予約を手軽に済ませられるweb予約システムで若年層の健(検)診受診を応援します。動き盛りや子育て世代は、日中忙しくて市役所に行く時間はない! そんな方々も、帰宅後やお子様就寝した後など、好きな時間に予約することが可能になります。

食の健康づくり事業

健康の基本は食生活!



1日3回の「食事」。30年間なら32,850回になります。まさにカラダを維持し続ける「食」は、健康づくりの基本なのです。「健康づくり講演会」や「ベジタベ&ちよこっと減塩講座」、「ヘルシーバランス弁当の普及啓発」、各種イベントでの「野菜350グラム計測・塩分チェック」と「1日分の野菜セット配布」など、今年度も盛りだくさんの事業を展開し、みなさまの健康意識向上を後押しします。